

なじらね.jp

なじらね

春

どっとじょーびー

平成 27 (2015) 年 3 月 31 日 (火) 発行 - 第 13 号 -



【発行人】「にいがた青年海外協力隊を育てる会」 会長 羽賀 友信 / 事務局長 横山 容司郎
The Supporting Organization of J.O.C.V. NIIGATA
【事務局】〒950-2012 新潟県新潟市西区小針台1-15 株式会社 アルファブライト 内
Tel. 025-234-1500, Fax. 025-234-1002, E-mail n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL http://n-sojocv-najirane.com
【題 字】藤田 美枝子 (※「なじらね」とは、新潟弁で「元気ですか?」の意味)
【編集人】広報文化専門委員会 山田 規央

- NAJIRANE Headlines -

【巻頭言】「なじらね.jp」第13号の発行に寄せて	1
【壱】平成26年度(第6回)理事・役員会の報告	2
【弐】新潟グローバルセミナー2015(当会後援)	2
【参】本県出身のJICAボランティア(JV & SV)が任国へ赴任! (平成26年度2次隊, 平成26年度3次隊)	3
【四】本県出身JICAボランティアによる近況報告	4 - 7
【五】新潟からの楽器支援, その後, , ,	7
Information, 壮行会&慰労会, 広告, 編集後記	8

にいがた青年海外協力隊を育てる会

検索

公式ホームページ随時更新中!

【巻頭言】 「なじらね.jp」第13号の発行に寄せて — 会長就任のあいさつ —



(長岡市国際交流センター長)

にいがた青年海外協力隊を育てる会 第2代会長
羽賀 友信 (はが ともおぶ)

昨年11月に平山前会長から会長職を引き継ぎました羽賀です。今年は青年海外協力隊が結成されてから50周年にあたります。また、戦後70年の節目にもあたっており、振り返りの大切な年になっています。

昨今、経済のグローバル化に伴い、学校、地域ともにグローバル人材を育成することに力を注いでいます。協力隊のOB・OGは英語だけでなく多言語を習得し、コミュニケーション力も現地で鍛えられ非常に高い能力を持っています。

また、グローバルとローカルの両視点を持っており、多様な価値観を持つ社会で必要とされる人材です。成熟した日本社会では、多様な課題が存在しており、その解決には多様な視点と協働による解決策が必要なのです。

私の住む長岡市でも、OB・OGが地域のオーガナイザーとして活躍しています。今後ますます必要な人材になっていくと思われます。その育成の一助になれば幸いです。よろしくお願いします。

【吉】 平成26年度（第6回）理事・役員会の報告

去る11月1日(土)、新潟会館にて「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第6回理事・役員会を開催致しました。新潟県における「JICAボランティア家族連絡会」を当会と新潟青年海外協力協会が運営するようになってから今年で6回目となります。

今回の議題は2点です。一つ目は、8月に実施した「エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト」の総括であり、高橋秋人OV(同プロジェクト事務局)より報告して頂きました。二つ目は、平山会長より意思表示がありました会長辞任の件であり、後任の会長人事について議論して頂きました。その結果、満場一致で次期会長に羽賀友信副会長にお願いすることになり、羽賀さんには快く引き受けて頂きました。又、羽賀副会長の後任として廣川正秋理事に副会長をお願いし、快諾して頂きました。以上より、会則第6条に基づき新会長に羽賀友信氏、新副会長に廣川正秋氏を選任させて頂きました。会則第13条の会長の権限に基づき11月2日から羽賀新会長のもと、新しい執行部で「にいがた青年海外協力隊を育てる会」を運営していくことになりました。会員の皆様におかれましてはご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、引続き協賛広告を下記の通りお願いします。

- ・広告媒体:機関紙「なじらね.jp」とホームページ
- ・年会費用:10,000円(機関紙は年2回発行、ホームページは常設バナー広告)
- ・現在の広告数:8社

最後に今回も理事・役員・留守家族やOVの方々に約50部のカレンダーを購入して頂きました。

※(参加者) 会長・副会長・理事・監事 7人、運営委員 7人、委任状 6人

(文:横山 容司郎 / 写真:山田 規央)



【式】 新潟グローバルセミナー2015(当会後援)

2015年2月14日(土)、新潟市中央区の駅前オフィスにて“ニイガタグローバルセミナー2015”を開催しました。昨年度に引き続き、県内のNGOと共催で、青年海外協力隊やスタディツアーなど海外派遣プログラムの体験談報告とブース毎の見本市を行いました。当日は、50名以上の参加者があり、スタッフ含めて75名の参加となりました。

初めのパネルトークでは、各団体の事業経験者4名がそれぞれの現地経験やプログラムに参加しての自分自身の变化、帰国後の活動などを語りました。コーディネーターは、新潟国際ボランティアセンターの三上事務局長に務めていただき、パネリスト一人ひとりの想いが伝わってくる内容でした。



その後は、団体毎にブースを設置し、座談会を行いました。参加者は、興味のある団体のブースを選び、詳しい活動内容や応募方法など、ざっくばらんに話ができた様子でした。座談会はどのブースも非常に盛り上がり、時間を延長する程の盛況ぶりでした。

最後は、参加者同士でも語り合い、新しい仲間を見つけてほしいという思いから、語り場ワークショップを実施しました。ここでは、参加者全員に語りたいテーマや気になるトピックを書いてもらい、似た者同士で少人数のグループを作り、自由に意見交換してもらいました。「国際人に必要な資質は?」「医療分野で国際協力したい」など約10のグループができ、どのグループでも有意義な意見交換ができたようです。

国際協力推進員としては最後の大仕事となりましたが、スタッフの皆さんから助けていただき、無事に終わることができました。本当にありがとうございました。

(文・写真:本田 龍輔 JICA新潟デスク)

<この他の当会後援イベント>

「国境なき医師団の医師と看護師を囲んで 国際協力について新潟で語り合う集い」(新潟医療福祉大学主催、3月4日、ときめいと)
「青年海外協力隊創設50周年記念セミナー 国際協力と地域づくり」(JOCA新潟主催、3月7日、小千谷市民会館)

【参】 本県出身のJICAボランティアが任国へ赴任！
(平成26年度2次隊、平成26年度3次隊)

本県出身の青年海外協力隊(JV)・シニア海外ボランティア(SV)の平成26年度2次隊(H26-2)新隊員1人(JV 5人+SV 1人)が平成26年9月下旬に、平成26年度3次隊(H26-3)新隊員9人(JV 4人+SV 0人)が平成27年1月上旬にそれぞれの任国へと出発しました。新隊員は訓練所での約70日間の派遣前訓練終了後に本県に帰郷し、それぞれ9月24日、12月25日に新潟県庁および新潟県国際交流協会に表敬訪問を行ない、両日共に当会からは横山事務局長が同伴致しました。これに併せ、直近に帰国していた本県出身隊員も同行し、帰国報告を行ないました。

また、毎回恒例の新隊員壮行会&帰国隊員慰労会を表敬訪問日の夜に新潟県青年海外協力協会(JOCA新潟)と共催で実施しました。当会としては、任国で活躍する本県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていけるように取り組んでいきます。表敬訪問に参加した各隊員を紹介します。

新隊員 (H26-2)	任国	職種
JV ①北 愛子 さん	マラウィ共和国	青少年活動
②計良 友美 さん	ブータン王国	助産師
③小俣 文子 さん	ベナン共和国	幼児教育
④武者 雅之 さん	パラグアイ共和国	コミュニティー開発
⑤匿名さん	セネガル共和国	家政・生活改善
SV ①高島 繁生 さん	カンボジア王国	道路

①マラウィの良いところをたくさん見つけてきたいです。

②ブータン人が自国の医療に関してどう考え何を求めているか、よく観察したい。

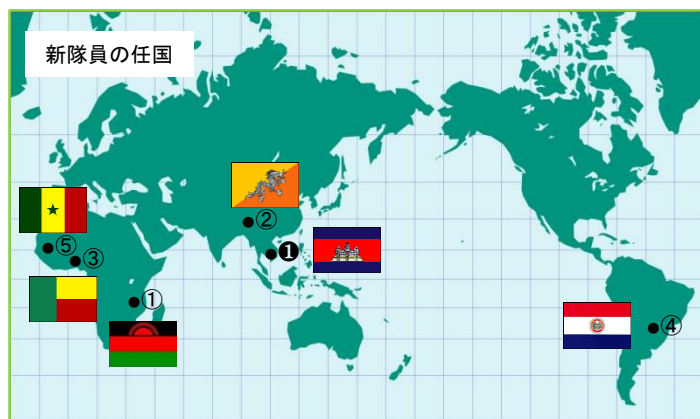
③ベナンの子どものために、教育を普及させていきたい。

④パラグアイ人と一緒に活動を楽しんでいきたい。

①通常の仕事をしています。

帰国隊員 (9月帰国)

JV: H24-1・山崎 志郎 さん (フィリピン共和国/溶接)



新隊員 (H26-3)	任国	職種
JV ①阿部 春香 さん	インドネシア共和国	料理
②刈屋 将志 さん	ベネズエラ・ボリバル共和国	野菜栽培
③三国 浩史 さん	タンザニア連合共和国	コンピューター技術
④山田 葉子 さん	ウガンダ共和国	看護師

①日本文化を伝え、衛生面の向上を図り、心身健康に過ごしたい。

②栃尾で経験したスコップともみ殻をベネズエラでも使い、汗かいてきます。

③タンザニアの行政サービスの向上に少しでも向上したいです

④現地の習慣や文化を学び、需要を把握して自分ができることを増やしたい。

帰国隊員

JV: H24-1 石川里佳子さん (マラウイ共和国/理数科教師)

H24-2 金子雄一さん (ベトナム社会主義共和国/村落開発普及員), 匿名さん (ザンビア共和国/エイズ対策)

SV: H24-2 平野正さん (ボリビア多民族国/鑄造・冶金)



地図と国旗は「世界地図・世界の国旗」HPより引用 (<http://www.abysse.co.jp/world/index.html>)

(文: 山田 規央 / 写真: 横山 容司郎)

小林 昭仁 Mr. Akihito KOBAYASHI, 日系社会SV
(平成26年度1次隊 / ブラジル連邦共和国 / 野球)



Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところですか？

日本からもっとも遠い場所に位置したブラジルで、日本からの移民者たちが野球を始め、今もなお日系人が中心となって野球が行われている国。長い歴史を知り、当時の方たちが日本に思いを馳せながら野球に取り組んでいたと思うとブラジル野球にロマンを感じてなりません。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？

私の活動先は日系人が中心となって運営しているスポーツクラブなので日本語も話せる方が多く、緑も多い施設なので日本の田舎のように感じる場合があります。ただ一歩外に出れば多種多様な人々が混在していて、まさに多民族国家を代表しているような国です。日本の23倍という広大な土地なので、その土地によって様々な特色がありますが、共通して感じることは皆思い思いに人生を楽しんでいるように思います。

Q3;あなたはどんな活動をしていますか？

ブラジル野球の普及と競技力向上を目指し、主にサンパウロ近郊のコーペルコチアクラブというヨーロッパ型スポーツクラブで活動しています。

Q4;これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？

嬉しかったことは、やはり野球指導している子供たちに結果が出たときです。辛いことは、ブラジルでの犯罪のニュースや話を聞いたときです。そのほとんどが貧富の差から生じるもので、未成年の犯罪を目にすると特に辛いです。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

日本の野球レベルに追い付け追い越せと頑張っているブラジル野球をサポートしつつ、ブラジル国内において野球がもっと広く認知され、野球が青少年育成の手助けとなるような活動を展開していこうと考えています。



ブラジルの貧困の象徴、ファベラ



挨拶は日本式です



昨年の全国大会で我がチームが優勝！

Federative Republic of Brazil

佐藤 晶子 Ms. Akiko SATOH, JV
(平成26年度1次隊 / エチオピア共和国 / 幼児教育)



Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところですか？

気候が日本の初夏に似ていて、暑すぎず、寒すぎず、快適に生活できます。同じ敷地内に住んでいる大家さんにも、家族のように接してもらいとても楽しく、充実した毎日が送れる場所です。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？

私の任地は首都の為、街はビルが立ち並び、ケータイ電話や電化製品を使っている人も多く、嗜好品も手に入ります。しかし、その反面、街の至る所に物乞いの人々が居るなど、貧富の差が見られます。そして、エチオピアはコーヒー発祥の地と言うこともあり、毎日コーヒーセレモニーと言うのを行います。豆を煎るところから始めて、2時間～3時間程かけてゆっくりとコーヒーの香りと味を、友人や家族と話をしながら楽しんでいきます。



エチオピアドレスと日本の浴衣

Q3;あなたはどんな活動をしていますか？

幼稚園で、運動、音楽、図工を中心に現地の先生たちと授業を行っています。エチオピアの幼児教育は、ノートに文字を書くことや暗記が中心の授業形態で宿題やテストもあります。ハサミやクレヨン、なわとび、鍵盤ハーモニカ、絵本などの教材の数もほとんど無く経験が明らかに少ない為、幼稚園にあるものを使ってできる工作や運動遊びを考えたり、先生たちとパズルや紙芝居を作ったりして、遊びながら学べる方法を知らせています。もう一つは、先生を対象にした幼児教育セミナーを行っています。配属先の幼稚園だけでなく、他の園の先生たちにも、工作や運動遊びのやり方などを知らせています。



コーヒー発祥の地「エチオピア」
コーヒーの実

Q4;これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？

エチオピアの料理(インジェラ&シュロワット)を作れるようになり、エチオピア人の友達に「美味しい！」と言ってもらえたことが嬉しかったです。辛かったことは、雨季になるとダニが増えて身体中刺されて痒かったことです。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

現地の先生たちが、取り入れたいと思う遊びを提案したり、教材作りのアイデアを出し合い一緒に作っていき、ボランティアが入らなくても先生たちだけで、遊びながら学べる授業作りができるようにしたいです。



幼稚園の元気いっぱいの子も達

Federal Democratic Republic of Ethiopia

【さまざまな生活文化ルポ】第9弾

任国の“介護観”

よこやま つとむ
現地リポーター：横山 勉、日系社会SV
平成26年度1次隊
ボリビア多民族国
高齢者介護



私の赴任先であるボリビアのサンファン移住地は、位置的には、ボリビアのちょうど中心に位置し、人口約780人という小さなコミュニティーをつくり、ボリビア社会にしっかりと根をはり、日系社会を築き上げました。日本から新天地を求め、南米のボリビアに入植して60年。そのたどり着いた地は、木々が生き茂る密林。入植したその日から、大木を伐採し、道路をつくるという過酷な日々が何年も続き、やっと稲作等が出来る田畑にまで、本当に血のにじむ思いで開拓をし、今日のサンファン移住地を築き上げてきたのが、日系一世の方々でした。その一世の方々も、すでに高齢となり、これまで担ってきた仕事の多くを、子に引き継ぐなどし、今は一日一日をゆっくりと暮らしております。日本における高齢者への介護は、核家族化に伴い、独居並びに高齢者世帯数が増加し、孤立死や虐待(認知症に伴う)、特養への待機者増など、家族(子供等)による親の介護は、さまざまな要因により、限界に達していると言っても過言ではない状況となっていますが、しかし、ここサンファン移住地における高齢者介護は、「親の介護は家族(子供)で…」という、子が親の面倒を見るのは、ごく当たり前のこととして、捉えられているのが、サンファン移住地における介護の現状です。移住したその日から過酷な日々が始まり、幾度も日本へ帰国しよう…と挫折しそうになりながらも、幾多の困難を乗り越え、今、こうして、異国の地ボリビアで、安定した生活を営むことが出来るのは、家長たる父親を柱に、家族が一つになり、困難を乗り越えてきた故の証ではないでしょうか。日本がまさに直面している家族制度の崩壊と併せて、超高齢社会を迎えている現状に、介護保険を含み、諸制度の整備が間に合わず、そのしわ寄せが、高齢者に跳ね返っていることに、経済大国日本のねじれた今を憂うのは私だけでしょうか。ここサンファン移住地での高齢者福祉(介護)は、子から孫へ、そして、地域社会も含め、脈々と受け継がれています。

【参考データ】 ●サンファン人口・・・775人(男性392人、女性383人)、 ●65歳以上・・・154人(男性78人、女性76人)、
●独居・・・8人(男性2人、女性6人)、 ●高齢者世帯・・・21世帯

Plurinational State of Bolivia



デイサービスやパワーリハビリを行っています。



高齢者の介護予防目的のパワーリハビリ。
参加者は5名、毎週月・木曜日午後開催。



認知症対応デイケアのご利用者、ご家族、職員と廊下前のお茶のひと時。

佐藤 夕起 Ms. Yuki SATOH, JV (OV)
(平成24年度2次隊／セネガル共和国／看護師)



Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところでしたか？

セネガルは美男美女の多い国です。みんな音楽が大好きで常にどこからともなくセネガルミュージックが聞こえてきます。それに、おしゃれ！服は生地を購入し、仕立て屋さんで自分の好きなデザインに仕立ててもらう。色とりどりの民族衣装を身にまとい、誇らしげに歩くセネガル人の姿が私は大好きです！任地のコチャリ村は多民族が共存していましたが民族間で争うことなく、みんなが仲良く助け合って生活していました。のんびりとした村で、とてもリラックスできる環境でした。



コチャリ村

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子でしたか？

村の中心の家には電気、水道が通っていましたが毎日のように断水がありました。電気代も安くはないので、夜は豆電球やロウソクをともして過ごしています。TVを持っている家庭では、外にTVを出して見えています。次第に近所の人々が集まってきて、みんなで同じ番組を見ながら一喜一憂する光景が微笑ましいです。水道のない家庭では共同の井戸で水を汲んできて生活用水として使用します。水汲みは女性の仕事でした。雨季になると、水溜りで洗濯をする人々の姿も見られました。ご飯作りも女性の仕事。セネガル料理はじっくり煮込む料理が多く、お昼の支度には3時間くらいかかります。



近所の仲良しさん

Q3;あなたはどんな活動をしていましたか？

コチャリ村の医者がない保健診療所で一般診療、妊産婦健診、施設分娩、予防接種、保健啓発活動、5S活動等に携わっていました。また、周辺の村に乳児予防接種の巡回や保健啓発活動のためにバイクで通っていました。

Q4;任期中、嬉しかったこと、辛かったことは？

嬉しかったことは村の皆さんが私を受け入れてくれて、信頼してくれたことです。また、職場の上司、同僚も私を家族の様に大切にしてくれて愛してくれたことです。辛かったことは、目の前で消えゆく命をただ見守ることしかできなかったことです。セネガルでは救急搬送するための費用、病院での治療費、家族の滞在費も全て自己負担しなければなりません。そのため、治療が必要な場合でも設備の整った病院への搬送を希望しないケースが多くあります。その場合、診療所のスタッフにできる最善を尽くします。日本の医療現場だったら救えたかもしれないのに...と思わずにはいられませんでした。



地域の保健関係者のみなさん

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

セネガルの末端の医療現場で活動できたことは幸せなことでした。セネガル政府の目指す医療環境と現場で働く人たちの現実を見ることが出来たからです。そのギャップを埋めるのも協力隊の大きな使命なのだと感じました。今後も視野を広げていろいろな角度から物事を見ることのできる人間へと成長してまいりたいと思います。

Republic of Senegal

金子 雄一 Mr. Yuichi KANEKO, JV (OV)
(平成24年度2次隊／ベトナム社会主義共和国／村落開発普及員)



Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところでしたか？

赴任前は日本と文化や生活習慣の異なるところ、と考えていましたが、実際に赴任してみると共通点が多いことに気づきました。米が主食で儒教の国のため基本的な価値観が似ており、また家族や地域の人々の結びつきが強いところはいわゆる日本の田舎と同じ様に感じました。暮らす程に居心地が良くなり、今では第二の故郷と感じています。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子でしたか？

3世代同居など大家族で暮らす人が多く、家族がしっかりしていれば極端な貧困に陥ったり犯罪に走ったりする人は少ない印象です。逆にそういう状況にある人は家族が崩壊していたり都市で孤独な生活をしている場合が多いようでした。また若い世代を中心に、進学や就職で都市に出て家族と別居する人も増えているようでした。

Q3;あなたはどんな活動をしていましたか？

古都フエから40Kmほど離れた人口320人の村で、古民家や窯業などの資源を活用した観光による村おこしを支援しました。村の人と一緒に村の魅力を整理して観光客向けのツアーを企画したり、村の陶器職人と共にお土産用のお茶碗やコーヒーカップを製作・販売したりしました。

Q4;任期中、嬉しかったこと、辛かったことは？

嬉しかったのは、村の人たちが自分たちでアイデアを出したり工夫したりしてくれたことです。村の市場での食材の買い出し+家庭での料理体験というツアーを企画した際、村の人たちが自主的に地元女性用の衣装や笠、自転車を用意してくれました。それらを使って参加者が村の市場に買い物に行く姿はまさに現地の人のように、皆大満足してくれました。辛かったことは特にありません。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

今後は新潟で働きます。もともと東京で働いていましたが、協力隊の活動を通じて地方都市での生活と地域おこしの面白さを実感しました。従い、次は新潟を良くするための仕事ができればと考えています。

Socialist Republic of Viet Nam



ツアーを体験する参加者



陶器のコーヒーカップ他



村での送別会(帰国直前)



【五】 新潟からの楽器支援、その後、 『嬉しい！ワクワクした知らせ～ドミニカ共和国より』



「ドレミファソラシド～♪」青空の下、子どもたちの元気な声と鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの楽器の音、音楽に合わせて楽しそうに踊る姿…ドミニカ共和国の任地カンピータでの日常の様子でした。約2年前、こんな日々を終わりにたくない気持ちで一杯でした。送別会は全て子どもたちのコンサートに変更してもらい、帰国前日まで子どもたちと音楽を楽しみました。困難なこともたくさんあった2年間。しかし、言葉や文化の壁を越え『音楽』を通して共に笑い、時には落ち込み、全てを終え帰国してから子どもたちの元気な歌声や音楽が聞こえてきそうです。



先日、1枚の写真が届きました。音楽を続けてくれた子どもたちが発表している様子です。帰国時、後任の指導者もなく、指導や楽器の管理等、正直とても心配でした。人数は縮小したものの、現地の先生に協力してもらいながら、子どもたち同士で教えあって音楽を続けてくれている様子です。任期中、にいがた青年海外協力隊を育てる会様より送って頂いた楽器も大切に使用されているとのことで、安心しました。帰国後の何よりも嬉しく、そしてこれからのドミニカ共和国の子どもたちや私自身にワクワクする知らせでした。

協力隊活動2年間の終了は決して「終わり」ではなく、任国の人々や隊員にとって「新たな始まり」なのかもしれません。今後も任国で出会った人々を応援し続け、自分自身も前進して行けたらと思います。

(文・写真：神田 綾子 平成22年度1次隊・音楽)

県北からも、青年海外協力隊を
応援しています！

ケーブル・ハーネス加工、電装品・制御盤の組立



株式会社 興栄電機
KOUEI Electric Co., Ltd.

〒959-3121

新潟県村上市佐々木577

Tel. 0254-62-5653, Fax. 0254-62-5650

URL <http://www.koueielectric.jp>

電気が使える「あたりまえ」私たちが支えます。
電気工事、土木工事、とび土工、機械器具設置、
消防設備工事



胎内電建工業株式会社

〒959-2657

新潟県胎内市江上966

Tel. 0254-43-5345, Fax. 0254-43-5389

URL <http://tainaidenken.com>

私達は協力隊応援団です！
果物のことは大野青果に！



新潟市中央卸売市場

大野青果 株式会社

代表取締役 大野 修

〒950-0114

新潟県新潟市江南区茗荷谷711

Tel. 025-257-6220, Fax. 025-257-6219

- INFORMATION -

1. 平成27年度JICAボランティア募集のご案内

平成27年4月1日(水)～5月11日(月)の期間、青年海外協力隊／日系社会青年ボランティア(20～39歳)、シニア海外ボランティア(40～69歳)の志願者の募集が行なわれます。応募に関する詳細は、下記へご連絡またはJICA公式HPでご確認下さい。

《体験談＆説明会》◆新潟会場：平成27年4月19日(日)14:00～ 新潟日報メディアシップ 6階ナレッジルーム

◆上越会場：平成27年4月23日(木)19:00～ 上越市市民プラザ 第一会議室

◆長岡会場：平成27年4月26日(日)15:00～ まちなかキャンパス長岡 301会議室

【お問い合わせ】 JICA新潟デスク・和田さん Tel. 025-290-5650 / Fax. 025-249-8122, JICA公式HP <http://www.jica.go.jp>

2. 平成27年度総会のご案内

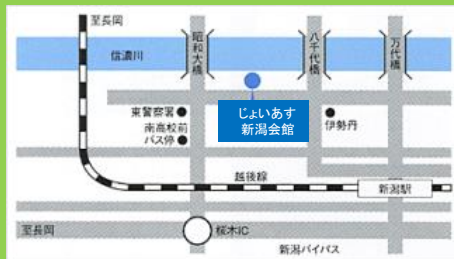
日時：平成27年5月30日(土)、15:00～(予定)

会場：じよいあす新潟会館 3階ボタン →

(新潟市中央区幸西3-3-1 Tel. 025-247-9307)

内容：昨年度の活動報告と今年度の活動方針、講演会、帰国隊員報告会、懇親会(お一人5千円) ※お誘い合わせ可。

【お問い合わせ】 当会事務局まで(会員には後日ご案内を郵送)



新潟県から派遣される新隊員の壮行会および新潟に帰国した隊員の慰労会は年4回(3月、6月、9月、12月)開催。案内はMLで配信！



慰労会 ☆ 壮行会



(写真：本田 龍輔, 横山 容司郎)

協大賛募広集告

私達は新潟から青年海外協力隊を応援しています！
金属加工のことならABCにお任せ下さい

相場産業株式会社 **ABC**
〒955-0814
新潟県三条市金子新田1691-5
Tel. 0256-35-7460, Fax. 0256-35-7462
URL <http://www.abc-tool.co.jp>

壊れた自転車は、電話一本でOK！
出張修理専門
(新潟県南地区限定)

動く自転車屋
森田 敏明
〒950-0941
新潟県新潟市中央区女池7-10-3
Mobile 090-9009-4709
URL <http://ugoku-jitensyaya.com>



感動と夢、そして感謝



21世紀の生涯学習を推進する
株式会社アルファブライト
〒950-2012
新潟県新潟市西区小針台1-15
Tel. 025-234-1000, Fax. 025-234-1002
URL <http://alpha-bright.co.jp>

協賛広告
募集中！

世界にはばたこう、日本の心！

そやま接骨院
院長 楚山 恭男

〒940-1165
新潟県長岡市水梨町1106-15
Tel. & Fax. 0258-22-3654

静かな森と美しい庭園
かん すい ろう
新潟五頭温泉郷 村杉温泉 **環翠楼**

〒959-1928
新潟県阿賀野市村杉温泉
Tel. 0250-66-2131
Fax. 0250-66-2553
URL <http://kansuirou.jp>



協賛広告
募集中！

個人的な話で恐縮ですが、，，，今春、私の人生最大の恩師二人が定年退職されます。一人は小学校時代の担任、もう一人は最初の上司で、教わったスピリットは現在の私の精神的支柱になっています。二人の恩師が社会の第一線から退かれる今、私自身の生き方はもちろん、後輩にあたる方々にどういうメッセージを発信していくべきか、真剣に考えていきたいと思っています。
(พรินไทย)